

映画同好会 キネマ月報



2020年11月号 (第2号)

目次

インド映画と食にまつわる短いお話し	岩崎 民夫	P2
映画に想うこと	梶間順子	P3
映画情報	キネマ月報編集部	P4-10
映画同好会予定表	映画同好会幹事	P10
編集後記	編集局	P11

今月のエッセー (1)

歌も踊りもないインド映画の紹介と食にまつわる短いお話し

岩崎 民夫

インド映画といえば突然歌や踊りが始まり、上映時間は3時間越え、ラブストーリー、家族の絆、スリルとサスペンス、派手なアクションなど全ておてんこ盛りというのが相場となっていますが、最近はそのような映画も時々出てきます。そんな中で紹介したいのが5 - 6年前に日本で公開された、「めぐり逢わせのお弁当」(原題 The Lunchbox)です。(TSUTAYAでレンタル可能)

舞台はインド最大の商業都市ムンバイ、主人公の初老の男性は損保会社の損害査定人、早期退職に応じ近々会社を去る予定。他方女性主人公は専業主婦、小学校低学年の娘が一人、旦那との間は最近秋風が吹いています。インドの大都市では弁当配達人が家庭で作ったお昼の弁当を家から亭主の会社まで届けるシステムがあり、それがこの映画のストーリーを形作っています。女性は亭主の気持を取り戻すべく弁当の料理に腕を振るうのですが、その弁当が間違っ主人公の男性の元に配達されることから始まります。両者とも間違っ配達されていることに気がきますが、弁当箱に添えられた手紙のやり取りを通じてお互いに心惹かれるようになっていきます。手紙というやや古めかしいコミュニケーションのツールによりお互いの状況や気持ちをかなり赤裸々に告白するところや、パツとしない初老の男性が次第にオシャレになるところ、女性の方がかなり前のめりになっていくのが面白いところ。その後の展開はどうぞ映画を見てお楽しみ下さい。

映画に出てくる弁当箱は4段の重箱スタイル、おかずが2品、それにカレー、主食はチャパティ(イーストの入らないパン)。質、量とも充実しています。インドでは宗教、カーストあるいは生活信条に関連し食事制限の内容が人によってかなり異なるため、家の弁当が一番安心して食べられるということでしょうか。さてインドカレーの味の決め手はスパイスミックス、マサラといひます。各家庭でオリジナルのマサラがあり、専門の職人を自宅に呼んで原料をすり鉢で粉末にするところから作らせます。都会の若い夫婦では出来合いの万能スパイスミックス、ガラムマサラを利用することも多いよう。もしインドに行かれる機会があればガラムマサラ購入をお勧めします。市販のカレールーに一つまみ加えるだけで味に深みが出てインド的になります。たまにはインド料理を食べたくりますがギーという乳脂肪が多いので、食べ過ぎに注意。

以上

(インド南部 AP 州グンツールという街に毎年タバコの葉の収穫シーズンになると出かけ、2 - 3カ月滞っていました。インドの中でも暑く、激辛カレーで有名な地域です。岩崎)

今月のエッセー (2)

映画に想うこと

梶間順子

人生の価値はその一生においてどれだけ感動する事が出来るかで決まるのではないだろうか。映画は心を豊かにし素晴らしい財産になると思う。様々な物語に共感し、時には励まされたりもする。私はどんな作品を観ても良かった！と思う。どんな駄作であったとしても何か1つは良い所を見つける。それは今まで多少なりとも映画やドラマ制作に携わってきた事から、その生みの苦しみや大変さがよくわかるからだ。松竹の文芸部で仕事をしていた頃、世の中はサスペンスブームで来る日も来る日も殺人の方法を考え、ありえない！と思う事をなるほど！と思えるように作り上げていた。そんなある日、実生活でありえないドラマが起こった。それは父と母と私、そして父の愛人が対面するという場面だった。普段家では丹前姿だった父がその家ではウングロのガウンを着ていた。私の頭の中にはたくさんのセリフと書きが浮かんだ。しかし実際は「お父さん、どうしたの!?」「なんだ、お前たち」とふたりでへらへらと笑ったのだった。母だけが冷静に言った。「着替えて下さい！」と。事実は小説より奇なり、まさにその通りで思いがけない展開に愕然とした。そして、その時から私は、書く事をやめた。

父は官僚としては大した出世もせず、家では不器用で頑固な人だった。しかし、私が小中学生だった9年間、どんなに忙しくても1ヶ月に1度土曜日の午後に銀座の映画館に連れて行ってくれた。話題の映画から名作まで数えきれないくらいの映画を観た。間違いなくそれらは私の貴重な財産となったのである。

人生は楽しい事、嬉しい事がいっぱいある。それと同じだけ悲しい事、苦しい事もある。そのすべてが感動であり、そこから何を学ぶかが大切なのだろう。

夢の中に出てくる父は未だに私に目を合わせようとしない。そんな天国の父に私は言いたい。「もう、いいよ！今ならお父さんの気持ちがよくわかるから。たくさんの感動を本当に、ありがとう！//

映画情報

【話題の封切り映画 11 月度】（推薦者、敬称略）※詳細情報は推薦者まで

- ① 泣く子はいねえが（小西）第 66 回サン・セバスティアン国際映画祭最優秀撮影賞
11/20～

是枝裕和が惚れ込んだ新たな才能！今、世界が注目する佐藤快磨監督長編デビュー作、「大人になるとは？」誰もが経験する人生の通過点を圧倒的なリアリティで描く。

- ② おらおらでひとりいぐも（真木）

11/6～ TOHO シネマズ系列

若竹千佐子のベストセラー小説を沖田修一監督（モリのある場所）が映画化、ひとりの女性を田中裕子と蒼井優が二人一役で演ずる。

※なお主題歌をハナレグミが歌っていますが、ハナレグミはオースティン靖子さんの甥です。（真木）

- ③ アーニャは、きっと来る（菅原）

11/27～ ヒューマンラスト有楽町、109 シネマズ二子玉川、横浜ブルク 13 など
ナチス占領下のフランスで、ピレネーで羊飼いをする 13 歳の少年とユダヤ人との話。
私的にはリュック・ベッソン監督の常連ジャン・レノ 72 歳の演技に関心がある。

- ④ ドクター・デスの遺産 BLACK FILE（横山）

11/13～ TOHO シネマズ系列

監督・深川栄洋、主演・綾野剛、北川景子、130 人を安楽死させた実在の医師をモデルに映画化。禁断のクライム・サスペンス。

※鉄道員（ぼっぼや）（菅原）1999 年作品のリバイバル上映

11/6～ T・ジョイ PRINCE 品川など

商社マン時代には、この映画で随分泣きました。長期出張の繰り返しで、娘になかなか会えず、罪悪感が鬱積していたのでしょう。広末涼子のセリフに娘を重ねては、涙、涙でした。見逃した方には絶対お勧めです。

【NHK-BSP シネマ放映予定 11月分推薦作品】（推薦者 真木）

1：「ショーシャンクの空に」（1994年）11月3日（火）13時～

監督 フランク・ダラボン

主演 ティム・ロビンス、モーガン・フリーマン

刑務所にえん罪で入れられた銀行員が、希望を捨てずに生きていくさまが描かれている。不屈の闘志と友情。こころに染み入る重厚なドラマ。

アメリカ映画ベスト100位中72位にランクイン

アカデミー賞、ゴールデングローブ賞に各賞ノミネート

日本 キネマ旬報 外国映画賞、ベストテン1位

2：「ノッティングヒルの恋人」（1999年）11月4日（水）13時～

監督 ロジャー・ミツシエル

主演 ジュリア・ロバーツ、ヒュー・グラント

楽しい恋物語、落ち込んだとき気分を高揚させてくれる映画

3：「アパートの鍵貸します」（1960年）11月5日（木）13時～

監督 ビリー・ワイルダー

主演 ジャック・レモン、シャリー・マクレーン

軽妙なラブコメディであるとともに社会派映画。

アカデミー賞 作品賞、監督賞、脚本賞、美術賞、編集賞 各賞受賞

ゴールデングローブ賞 作品賞、主演男優賞、主演女優賞 各賞受賞

4：「荒野の決闘」（1946年）11月6日（金）13時～

監督 監督 ジョン・フォード

主演 ヘンリー・フォンダ、リンダ・ダーネル

「駅馬車」とならび称される西部劇の名作。

保安官 ワイアット・アープ、舞台となるトウームストーンの名前は有名である。

5 : 「キューポラのある街」(1962年) 11月10日(火) 13時～

監督 浦山桐郎

主演 吉永小百合、浜田光夫

埼玉県川口市を舞台にした吉永小百合と浜田光夫コンビの青春ドラマ。
ブルーリボン賞作品賞受賞。

6 : 「昼下がりの情事」(1957年) 11月11日(水) 13時～

監督 ビリー・ワイルダー

主演 ゲイリー・クーパー、オードリー・ヘップバーン、
モーリス・シュバリエ

ゲイリークーパー、ヘップバーン、シュバリエそれぞれの味がでている
粹な恋の物語。

なお11月はこの作品の他に、18日の「テイファニーで朝食を」
25日の「シャレード」とヘップバーンの魅力あふれる作品が3本上映
予定である。

7 : 「地上最大のショー」(1952年) 11月12日(木) 13時～

監督 セシル・B・デミル

主演 チャールトン・ヘストン、ベティ・ハットン、ジェームス・シュチ
ュアート

サーカスで競い合う、男女3人の物語。
アカデミー賞 作品賞、原案賞受賞。
ゴールデン グローブ賞 作品賞、監督賞、撮影賞受賞。

8 : 「恐怖の報酬」(1977年) 11月16日(月) 13時～

監督 ウィリアム・フリードキン

主演 ロイ・シュナイダー、ブリュノ・クレメール

この映画は、1953年公開されたフランス映画のリメイクである。
生活が苦しいならず者たちがニトログリセリンを山道を使いトラックで運ぶ物語で、スリリングな展開にひきつけられる。

9 : 「愛と死をみつめて」 (1964年) 11月17日 (火) 13時～

監督 斎藤武市

主演 吉永小百合、浜田光夫

ベストセラーとなった同名の本で実話に基づいた、「ミコ」と「マコ」の純愛物語。

10 : 「ガンジー」 (1982年) 11月30日 (月) 13時～

監督 リチャード・アッテンボロー

主演 ベン・キングスレー、キャンデス・バーゲン

イギリス、インド、アメリカの合作映画。ガンジーの生涯を描いた映画。

アカデミー賞 作品、監督、主演男優賞、脚本、撮影、美術、装置、
衣装デザイン、編集 と数多くの賞を受賞した。

そのほか、ゴールデングローブ賞、英国アカデミー賞なども授賞。

188分の大作、名作で、偉大なガンジーに触れることができる必見の映画である。

【名画座作品情報 11月】 (情報提供：本田、真木)

1. 今年はスターの生誕100年記念企画が花盛り

①国立映画アーカイブ <https://www.nfaj.go.jp/>では

・三船敏郎 生誕100年記念 (10.2～10.22) が開催されました。

「銀嶺の果て」(1947) から最後の出演作「深い河」(1993) まで計27作品を回顧上映。チケットがとれないほどの盛況でした。コロナのため座席も制限されています。

引き続き、国立映画アーカイブでは、**・原 節子** (11.17～12.11) **・山口淑子** (12.12～12.27) の生誕100年記念企画を予定しています。懐かしい作品が網羅されます。

②シネマヴェーラ渋谷 <http://www.cinemavera.com/>では、
・岡田英次・芥川比呂志生誕100年記念(インテリ俳優特集 10.31~11.20)
です。

岡田英次 (1920~1995)「二十四時間の情事」(1959 アラン・レネ監督 エマニュエル・リヴァ) 堪能なフランス語が出てきます。「青銅の基督」「人間魚雷回天」等

芥川比呂志 (1920~1981) 作家芥川龍之介の長男、文学座の俳優・演出家。
「煙突の見える場所」(1953 五所平之助監督 田中絹代、上原謙、高峰秀子)
「熱愛者」「墨東綺談」等

2. 「ようこそ映画音響の世界へ」(10.17~11.6 横浜ジャック&ベティ
<https://www.jackandbetty.net/>) ミッジ・コステイン監督。音楽、声、効果音など映画を彩る様々な“音”はどのように作られ、どんな効果を生んでいるか、音響に焦点を当てたドキュメンタリー。見逃すと後悔しますよ！

ドキュメンタリー「**誰がハマーショルドを殺したか**」(11.7~)、「**トルーマン・カポティ真実のテープ**」(11.6~) も同館で上映。注目されます。

3. 「**セノーテ**」(2019 小田香監督・脚本・編集) (~11.6 横浜シネマリン
<https://cinemarine.co.jp/>) メキシコ・ユカタン半島北部に点在する、セノーテと呼ばれる洞窟内の泉の深遠な世界を描くドキュメンタリー。小田香(1987大阪府生まれ、アメリカ・ホリンス大学教養学部映画コースを終了後、「サタンタンゴ」「ニーチェの馬」で知られるタル・ベーラ監督が後進の育成のために設立した映画学校 Film Factory で三年間学び、製作した「**鉦 ARAGANE**」

が鮮烈な印象を残しました。

4. 「**生きちゃった**」(10.30 ~ kinocinema MM
<https://kinocinema.jp/minatomirai/>) 仲野太賀、大島優子、若葉竜也出演。石井裕也(1983生) 監督・脚本のオリジナル作品。妻と見知らぬ男の情事を目撃して、夫は怒りや悲しみの感情もなく、心に蓋をする。幼馴染みの男女三人のもつれた人間関係を描く。石井監督は「川の底からこんにちは」「あぜ道のダンディ」「舟を編む」「バンクーバーの朝日」「町田くんの世界」など常に話題作を発表しています。

ロードショウ (10/3～) 作品の遅れ上映ですが、見逃した方は、どうぞ～。

5. 『**『群衆』ドキュメンタリー3選**』(11.4～12.11 シアターイメージ・フォーラム <http://www.imageforum.co.jp/>)セルゲイ・ロズニツァ監督(ベルリン在住、1964 ベラルーシ生)が発掘されたアーカイヴ・フィルムを使用して、時代と群衆にまなざしを向けたドキュメンタリー。

・「**国葬**」2019 ソビエトの独裁者スターリンの人類史上最大級の国葬の記録。

・「**肅正裁判**」2018 スターリンによる見せしめ裁判。捏造された罪と事実の罰。権力がいかに人を欺き群衆を扇動し、独裁政権を誕生させるかを描きだす。

・「**アウステルリッツ**」2016 ホロコーストで多くのユダヤ人が虐殺された、元強制収容所のダーク・ツーリズム化の問題を描き、過去にどう向き合うかを考える。

6. 「**ばるぼら**」(11.20～ シネマート新宿 <https://www.cinemart.co.jp/theater/shinjuku/>、渋谷ユーロスペース <http://www.eurospace.co.jp/newsmov.htm>)手塚治虫の大人向け漫画で、禁断の愛とミステリー、芸術とエロス、スキャンダル、オカルティズムなどのタブーを描いたもの。映像化不可能と言われていたが、手塚治虫生誕90周年作品として、子息手塚眞監督が映画化に挑戦。稲垣吾郎、二階堂ふみ、渋谷清彦、石橋静河が出演。

7. 「**空に聞く**」(11/21～ ポレポレ東中野 <https://www.mmjp.or.jp/pole2/>にてロードショー)

東日本大震災の後、約3年半に渡り「陸前高田災害FM」のパーソナリティーを務めた阿部裕美さんを追ったドキュメンタリー。監督、撮影、編集は、震災後に東北に移住し、ドキュメンタリー作品を撮り続ける小森はるか。

映画同好会予定表

* 11月10日 18時

映画同好会名画鑑賞会 リアル会 <将軍たちの夜>

場所： 青山学院校友会アイビーホールとなり、レストランフィリア
03-3409-8187

* 11月19日 16時～18時

映画同好会 第4回 ZOOM 会

会員の方は、どなたでも参加できるよう、全員のメルアドに前日 URL を配信します。
テーマは、前述 NHK-BSP シネマ推薦作品 10 本について、ZOOM 会当日までに
放映された映画全体とし、皆さんがご覧になった作品について感想をお話しいたきま
す。

* 12月2日 忘年会

大変残念ですが、コロナ禍が収束しない中での会員多数でのリアル会は、感染防止の
観点から本年度は中止させていただきます。

編集後記

当シネマ月報第 2 号がみなさんのお目に触れる時期は、まさに米国大統領選挙の実施さ
れる 11 月 3 日に重なるタイミングとなります。今回の大統領選挙はコロナ禍による 22 万
人の犠牲者という、米国のこれまで経験したことのない大惨事の中で実施されます。10 月
22 日のトランプ VS バイデンのテレビ討論会で、トランプはこのパンデミックの責任は中国にあ
ると発言していました。まさにその日、NHK-BS プレミアムシアターでは「慕情」が上映されまし
た。舞台となるのは、1949 年の香港。中国共産党が中国の主要地域をほぼ支配する

ことに成功し、これを嫌う反共産党勢力が連日大量に香港に脱出していた（映画では毎日 3000 人と言っていたと思います）時代です。当時、アメリカが中国共産党をどのように見ていたか、登場人物のセリフの端々から知ることができます。そして、現在の中国共産党による香港支配。こんな中国共産党を敵視するのは、トランプが最初ではありません。中共批判は脈々と流れるアメリカの血の一部とも言えると思います。そんなアメリカの伝統に忠実であるトランプが再選を果たす、というシナリオを私は勝手に描いています。

NHK—BSP ばかりに気を取られていたら、NHK ラジオでも映画にまつわる良い番組をやっていると、本田さんから情報提供がありました。NHK 第 2 放送日曜日早朝 6 時 45 分から 40 分間の「こころをよむ」という放送です。（土曜日午後 6 時から再放送あり）その枠内で、現在は「シネマレッスン・主人公が教えてくれること」として、映画評論家の青柳秀侑（ひですけ）氏が過去の名作を毎週 2 本取り上げて、映画の背景などを説明しています。早朝が苦手なものですので、テキストを購入して読みました。この小冊子が上出来で、800 円でこんなに充実した映画解説本はなかなか見つからないと思います。放送をお聞きになれなくても、テキストを読んでみてください。（編集局菅原）

